

佐見地区（白川町）

令和元年度事例

【地域の概要】

- 白川町は、岐阜県の中南部にある加茂郡の東部に位置する人口8千人余りの町で、河川流域により佐見地区、黒川地区、白川地区、白川北地区、蘇原地区の5地区に分けることができる。その中でも佐見地区は、集落営農の組織化や、町外からの移住による新規就農者が多い地区で、営農組織や新規就農者に対する農地の利用集積も行われている。
- 基幹作物は、水稻、夏秋トマトのほか、集落営農組合が作付けする大豆があげられる。
- 昨年には(農)大寺営農組合を主軸として(農)有吉営農組合、(農)久室営農組合による適格合併が行われ(農)ファーム佐見を設立するなど、地域の枠を外した集団での経営に力を入れている。

取組開始前の状況や課題

- 合併前の営農エリアの中間に位置するエリアの利用集積・集約化を図る。中間地域（任意組合）から加入の希望があることや農業経営の効率化を図る。

<設立時>

(農)ファーム佐見	集積面積	50.1ha
(地域面積147.8ha)	集積率	34%

内訳

(農)大寺営農組合	13.1ha
(農)有吉営農組合	23.2ha
(農)久室営農組合	13.8ha



ファーム佐見営農エリア（上佐見・久室）

取組内容

- 営農エリアの中間に位置するエリアの集約化を図る上で、従前から小野水田組合へ作業受委託をしていた個人はもとより、それ以外の個人に対しても集積・集約できるよう働きかけた。

<集積・集約後>

(農)ファーム佐見	集積面積	59.2ha
(地域面積147.8ha)	集積率	40%

内訳

小野水田組合	8.5ha（うち新規 0.4ha）
大寺営農地域新規	0.1ha
有吉営農地域新規	0.5ha



ファーム佐見営農エリア（上佐見・久室）

今後の展開と方向性

- 現在の営農エリアの中で、借受可能な農地（圃場整備田）に関しては、今後も働きかけ、地域農地の集積率50%を目標に集積・集約をしていく。
- 行政と連携し、新たな機械（ICTなども含め）の導入や、それに対応した圃場の整備なども行い、担い手となるべき若者などを育成し、就農離れを防止していく。
- 集落営農組織へ貸付可能な農地と、個人で借り受けている担い手に貸す農地との棲み分けをする。
- 利用状況調査等を通じ、遊休農地や荒廃農地を調査する中で、今後、活用できる守るべき農地とそうでない農地を見極め地域の農地を整理する。
- 町内の他地区において、現在任意組合となっている営農組織についても今後、法人化を検討する。